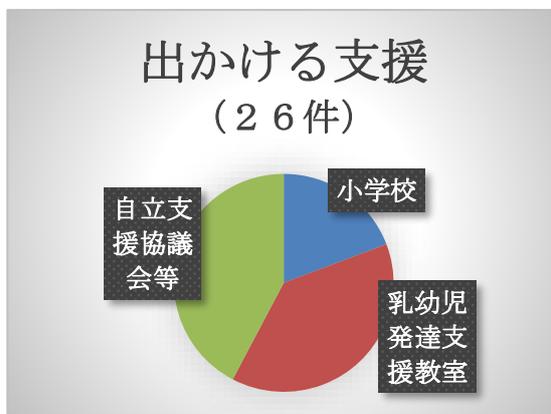
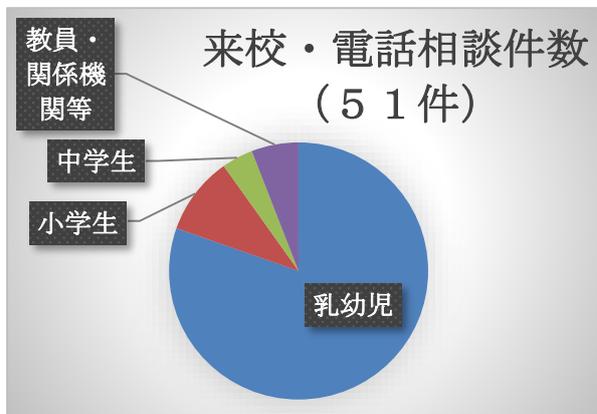


# キラキラ通信



郡山支援学校 地域支援部だより 第5号 平成30年3月16日(金)発行

## 教育相談や出かける支援を実施しました



今年度の来校・電話相談は、乳幼児の保護者からの相談が多かったです。相談内容の多くは、障がいや病気の理解や発達についてのものでした。早くに診断を受けたが、どのような障がいか、今後どのように発達し、どのような課題が現れてくるのかといった大きな不安を抱えているようでした。また、どのようなところに相談に行けばよいのか分からないといった話もあり、関係機関が集まる自立支援協議会等で話題にし、リーフレットや発達リスト等を作成してきました。出かける支援では、小学校に在籍している肢体不自由のある子どもへの支援の仕方についての相談がありました。

また、ある乳児の保護者からは、「障がいのある子どもをほめてもらえて嬉しかったです。子どもがこんなに成長していたんだと初めて知りました。」「私と同じように悩んでいる人たちにも伝えますね。」との話があり、口コミで広がっていったようでした。

校内の保護者の皆さんの相談も受け付けています。一人で悩まないで、話しませんか。秘密は守ります。

## シリーズ 支援の視点④ 「目と手の協応(きょうおう)」

私たちは普段何気なく目でものを見て生活していますが、「見る」ということには、視力以外に様々な機能が関連しています。例えば、見たい方向へ目を素早く動かす、目から取り込んだ情報を脳で処理する、それらの情報をふまえて体の動きを調節する等のことです。それらが互いに関連しあいながらうまく機能して初めて、線に沿ってはさみで切ったり、ボタンを留めたりすることができるのです。

「目と手の協応」とは、手で物を操作するときに、目で見て確認しながら、あるいは視線に沿いながら、手の動きを調整していくことをいいます。もともと見ることと手を使うことは別の能力ではありますが、発達の過程で具体物の操作を繰り返すことによって、次第に目の機能と手の機能が統合されていくのです。

本を読んでいるとき行を読み飛ばしてしまう、漢字がなかなか覚えられない、板書を写すのが苦手・・・などの悩みも、目と手の協応がうまくいかない人に多いようです。見ることと体の動きの関連がうまくいかないと、ボールの扱いや姿勢そのものもぎこちなくなりがちです。

このようなケースでは、見る力をつけるトレーニングが効果的です。見る力は、①眼球を動かす力 ②見えたものを形として認識する力 ③見た情報に合わせて身体を動かす力から成り立つと考えられています。

カレンダーから今日の日付を探す、空を飛ぶ鳥を目で追ってみる、折り紙を折る、はさみで何かの形を切ってみる、おかずを皿に一つずつ盛り付ける等、日常生活の何気ない場面やお手伝いの場面で、親子で楽しく関わり合いながら試してみたいはいかがでしょうか？